



平成30年1月17日

第423号

新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

共に高め合い励まし合う姿を ！

校長 高橋 祐二

保護者、地域の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年中は、創立30周年という節目に当たり、多大なるお力添えをいただき大変ありがとうございました。

本年も相変わらず、保護者、地域の皆様との「つながり」を大切にし、子どもたちを育てていきたいと思っております。ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、新年が明けて衝撃的なニュースが飛び込んできました。関係者の心中を察すると切なくなります。是非、子どもたちにも考えさせたい問題でした。

その問題とは、**オリンピック出場を目指していたカヌー選手が、ライバル選手の飲み物に薬物を入れるなど、妨害行為を8年前から続けていたとのこと。**この選手は、2016年のリオデジャネイロ五輪出場を逃し五輪経験のないまま引退。しかし、その後、五輪出場を諦めきれず復帰。焦りがあったのかと報道されています。この問題が明るみに出たのは、妨害行為をした選手が、良心の呵責に耐えきれず、警察及び関係者に自白したからです。

みなさんは、この報道をどのように受け止めましたか？また、子どもたちは、どのような感想を持ったことでしょうか？

この選手が、行った行為は、どのような理由があろうと絶対に許されるものでないことは明らかです。おそらく一生、罪を背負って生きていくことになるでしょう。

しかし、仲間が怪我をしてくれたら、相手が自分より上手にならないように・・・自分にチャンスが生まれる・・・！なんてことを考えてしまうことは、スポーツの世界や人間社会ではよく聞く話です。切磋琢磨しながら、自己の技量やチームの力を向上させる。そして、一つの目標に向かってみんなで力を合わせて頑張る。そんな互いを高め合う爽やかな世界の中にも、ドロドロした人間模様が隠されています。

東豊小学校では、今年度、徳育の重点指導事項として「思いやり・協力」「充実した学校生活」「あいさつ・言葉づかい」としています。その中の「思いやり・協力」において、子どもアンケートでは、思いやりに関する項目では97.3%が肯定的評価、また、協力に関する項目では96.4%が肯定的評価でした。更に、7割以上の子どもたちが「とてもよくできている。」と答えています。この結果となった要因の一つとしては、教育活動において縦割り班活動や異学年交流を行い、意図的に「相手を思いやり互いに協力する」場面を取り入れています。そして、活動後には振り返りを行い、お互いを認め合う場を設定しています。

学校は、人と人が互いを思いやり、協力しあいながら共に高め合う場でなくてはなりません。学習や活動の中で、人と競い合う機会が当然あるにせよ「人を敬う、感謝する心」は、忘れてはいけないことです。人と協力していくからこそ、自己も高めることができるのですね。自分だけの欲求を満足させるために、「人としての道」を外すことのないように、しっかり子どもたちに指導しなくてはならないと感じました。

子どもたちは、これからの人生、仲間と切磋琢磨する場面、競い合う場面が多々あります。受験も待っています。そんな中を勝ち抜くことだけでなく、一人一人が、**自己の目標を持ち、仲間と共に高め合い励まし合っていく姿を見守っていきたいものだと感じました。**

今年も、保護者、地域の皆様には、子どもたちの健やかな成長のためにお力添えをよろしくお願いいたします。

まだまだ、極寒の日々が続きます。しかし、一日一日と日が長くなっています。確実に春の足音が近づいていますね！